



深谷のことを もっと

よみがえる古代の役所 熊野・中宿遺跡

現在の深谷市周辺は、古代武蔵国に属し、榛沢、幡羅、男衾郡の領域にあたります。このうち榛沢郡の役所跡の遺跡が、岡地区から発見されています。熊野遺跡は、地方に律令制度が浸透したころの7世紀後半ころに成立しています。この遺跡からは多くの遺構・遺物が発見されており、榛沢郡の初期の役所の姿が明瞭に確認できます。遺跡からは、大和国（現在の奈良県）の飛鳥地域で製作され、



熊野遺跡で発見された古代の硯

持ち運ばれたと見られる土器や、飛鳥地域や平城宮など極めて限られた遺跡でしか出土しない蹄脚硯（古代の硯の一種）の発見などがあり、古代の役所が、中央と地方の人々や文物をつなぐ交流拠点であったことが証明されています。中宿遺跡は、役所の施設のうち「正倉」に推定される遺跡です。遺跡が営まれた年代は、7世紀末から10世紀ころと考えられます。正倉とは、税として納められた稲を保管する倉庫のこととで、郡ごとに必ず設置された

校倉は、六角形（三角形の頂点を平坦にした形状）の材木を積み上げながら壁とし、板倉は、柱と柱の間に厚板を落とし込み壁としています。現存する古代建築物として著名な東大寺の正

施設です。遺跡からは、大規模な掘立柱建物跡や礎石建物跡の基礎部分が発見されました。発掘調査は、平成3年〜10年にかけて実施され、発掘調査範囲約7千㎡が「中宿古代倉庫群跡」として埼玉県の史跡に指定されています。このうち一号、二号建築物は古代建築史の研究成果などを参考にしながら、それぞれ校倉・板倉に復元されています。



校倉復元図



復元された古代倉庫（中宿歴史公園）

倉院は、この二種類の工法を組み合わせた構造を持っています。古代倉庫周辺は、道の駅「おかべ」・散策路・池などが整備されています。また道の駅「おかべ」には、熊野・中宿遺跡から出土した遺物が一部展示されています。



心の広場

人権標語 おたがいに 生きる権利を認め合う 人権意識は家庭から 安部絢子さん

「私にもできること」

藤沢中学校3年 野口香奈江さん

私の家には、昨年から寝たきりで生活をしている曾祖母がいます。曾祖母は、年齢や、寝たきり生活をしているせいか、最近、痴呆も入ってきています。曾祖母の介護は主に、祖母が行っている、祖母が留守の時は、母が行っています。祖母はいつも曾祖母と同じ部屋で寝て、夜中に曾祖母が騒ぎ出して優しく声をかけ、接しています。そして、祖母は少ない睡眠時間の中で、朝早く起きて庭をはいたり、昼間は、母がいないので、家事も行っています。そんな中で、曾祖母が呼ばば、部屋まで行って、介護を行っています。そんな祖母を見ていて、「すごいな。でも、私は、見ているだけでいいのだろうか。」そう思っています。思っているも行動に出すのは難しく、いつもただいそがしそうちに家の中を歩き回る祖母を見ているだけでした。そして、勇気を出して祖母に、「何か手伝うことある。」と聞いても、祖母は笑顔で、「大丈夫。茶の間でゆつくりしてな。」

と言われました。私は、「何で手伝わせてもらえないんだろう。私は役に立たないのか。」と思いました。そのような会話を何度かしているうちに、単純なことに気が付きました。別に介護だけを手伝わするのではなく、他のことを手伝えればいいのだと思います。そこで、いつも私に帰って来ると祖母がやっていることを思い出し、私にできることばかりでした。例えば、洗濯物を取りこんでたんだり、母が帰って来るまでの間の夕食の準備などです。思いの他沢山あったので、びっくりしました。家に帰ってすぐに行けることは毎日、塾があつて全部できないことは途中まででも、しっかりとできたらいなと思えます。一つのことに集中しすぎて、単純なことに気が付くのに時間がかかることがあります。けれど、私は、それに気が付くことができたので、良かったと思えます。気が付くことができて、考えることもできたので、きちんと実行できたら、祖母も助かると思います。家族の一員として、私にもできることは、少ないかもしれないけれど、その一つ一つを実行すれば大きなものになると信じています。

無意識のうちに＜思い込み＞

だんだん徐々に 男女共同参画

ある大病院の近くで、交通事故がありました。横断歩道を歩行中の父親と息子がトラックに跳ねられ、父親は即死してしまいました。息子も重症で、すぐにその近くの大病院に運ばれ、緊急手術をすることになりましたが、手術を行おうとした外科医がその患者を見て、「これは私の息子!!!」と叫びました…。動揺しながらも、その外科医は、その患者の手術をしました。

「さて問題です。この外科医は誰でしょう…。」

さて、上の文章を読んで、皆さんはどうお考えになりましたか？ 「息子の妻の父親（義理の父）？」 それとも「祖父が息子（父親）と見間違えた？」…。 いえいえ、どちらも不正解。 外科医（医者）＝男性 と思っはいませんか？

そう、答えは『息子の＜母親＞』です。 そう、この外科医は「女性」なのです。

わたしたちは、知らず知らずのうちにさまざまな「思い込み」をしています。「男女共同参画」という考え方がさまざまな場面で広がり、女性がいろいろな職業に就くことが当たり前の世の中になりつつあるにもかかわらず、いまだに、社会的地位のある人や会社の上司や管理職、社長などは＜男性＞と思込んでしまうことがあります。この思い込みが離れないと、なかなかこの答えにはたどり着けないでしょう。また、こういった無意識のうちの「思い込み」が、偏見や人権侵害につながるということを理解している人も少ないと思います。＜男女共同参画＞を理解しているつもりでも、ふとこういった場面で、心の根底に潜む意識に気付かされることもあるのではないのでしょうか。

問い合わせ…人権政策課男女共同参画係（深谷市勤労者家庭支援施設「L・フォルテ」）へ ☎ 366 - 0052 深谷市上柴町西4-2-6 ☎ 573 - 4761（火曜日休館）